

# JG A NEWS



2014 年 (平成 26 年) 10 月 **78号**

## CONTENTS

---

### • トピックス

|                                        |   |
|----------------------------------------|---|
| 医療保険部会 一般名処方推進など論点案<br>次期医療保険改革で ..... | 1 |
|----------------------------------------|---|

|                       |   |
|-----------------------|---|
| • リレー随想 (今井 博文) ..... | 3 |
|-----------------------|---|

|                     |   |
|---------------------|---|
| • 委員会活動 品質委員会 ..... | 5 |
|---------------------|---|

### • お知らせ

|                                                    |   |
|----------------------------------------------------|---|
| 大阪府河内長野市いきいき介護フェスタ<br>「使ってみよう! ジェネリック医薬品」講演会 ..... | 6 |
| 第 56 回全日本病院学会 in 福岡 .....                          | 7 |
| 第 24 回日本医療薬学年会 .....                               | 8 |
| 10 月イベント参加予定について .....                             | 9 |

|              |    |
|--------------|----|
| • 活動案内 ..... | 10 |
|--------------|----|

---



## 医療保険部会 一般名処方推進など論点案 次期医療保険改革で

次期医療保険制度改革に向けて厚生労働省は 9 月 19 日、社会保障審議会・医療保険部会（部会長＝遠藤久夫・学習院大経済学部教授）に、8 月 8 日付で公表した同部会での主な意見を基に作成した論点案を示した。後発医薬品の使用促進等のため、一般名処方の推進、新薬の自己負担割合の引き上げを検討することや、湿布薬・市販類似薬の保険適用範囲の見直しを議論することなどを盛り込んだ。次回以降、各テーマをグループに分けて議論を進め、11 月下旬をめどに部会としての意見の取りまとめを目指す。

論点案は、▽医療保険制度の財政基盤の安定化▽国民の負担に関する公平の確保▽保険給付の対象となる療養の範囲の適正化等▽医療費適正化・保険者機能発揮—の 4 つの項目に分けて検討課題を整理した。うち医療費適正化・保険者機能発揮の中で、後発医薬品の使用促進等に向けて一般名処方の推進、新薬の自己負担割合の引き上げなどの方法を検討することや、湿布薬・市販類似薬の保険適用範囲の見直しを議論することを論点に挙げた。

論点案には、外来の機能分化を推進するため、紹介状なしで大病院を受診する場合に患者に定額負担を求めることや、医療費適正化の推進のため、診療報酬の仕組みの再構築を検討することなども提案している。

森昌平委員（日本薬剤師会副会長）は、後発医薬品の使用促進について、各種調査で患者が後発医薬品を使用しない理由として「不安」という意見が依然として残っていることを挙げ「まだまだ未知の不安がある。関係者が協力して既知の安心へと変えていく必要がある」と述べ、関係者による患者の不安払拭への取り組みが欠かせないとした。

大病院への外来受診に関しては「この問題は患者負担だけで解決するわけではなく、患者の受診行動を変えるような取り組みが必要ではないか」とし、患者への広報や啓発活動を展開する必要性を指摘した。

同部会では10月以降、これらの検討テーマを「被用者保険・高齢者医療関係」「国保関係」「患者負担・保険料負担関係」「医療費適正化関係」などのグループに分けて議論を進め、11月から意見集約に向けた議論に入り、同下旬にも部会としての意見を取りまとめる予定。

◇厚生労働省 11年度の薬剤費比率21.9%、09年度から0.56ポイント上昇

また厚生労働省は9月10日の中医協薬価専門部会で、2011年度の国民医療費に占める薬剤費比率が21.9%だったことを明らかにした。09年度と比べ0.56ポイント上昇した。薬剤費は8兆4400億円、国民医療費は38兆5850億円だった。

部会で中川俊男委員（日本医師会副会長）は、後発医薬品を使うことで薬剤費比率がどの程度下がっているかのデータを示すよう求めた。

白川修二委員（健保連副会長）は、14年度薬価制度改革で導入された長期収載品の特例的引き下げ、いわゆるZ2の具体的な品目名と引き下げによる財政影響を示すよう要望した。

これらの求めに厚生労働省保険局医療課の中井清人薬剤管理官は「次回検討させていただきたい」と回答した。



## シンガポールの病院を訪ねて

富士製薬工業株式会社

今 井 博 文

8 月の末にシンガポールの Mount Elizabeth Novena Hospital を訪問した際に、同国の医療機関、医療保険制度、医療ツーリズムの状況について少し学ぶことができました。私の復習も兼ねて概要をお伝えさせていただきます。

まずは、シンガポール共和国については、面積は 716km<sup>2</sup>で東京の 23 区とほぼ同じで、人口は約 540 万人、GDP/一人当たりは ASEAN 内トップで日米を凌いでいます。医療においては高度先進医療に積極的に取り組み、医療に関する法律、システム、環境がとても整備されています。

シンガポールの病院については、私立病院が 12、公立病院が 13 施設で、ベッド数は 10,700 床余りで人口 1,000 人につき 2 床の割合となっています。今回訪問した私立病院については、メディカルセンターと呼ばれる全ての診療科の各専門医のクリニックが多く入っている外来診療の施設と、隣接した検査、手術、入院などの病棟が明確に分かれていました。私立病院では一般にオープンシステムという制度で、メディカルセンター内に各専門医がクリニックを開業、各々で治療方針、内容などを決め、必要に応じて病棟（常時、緊急医と医療スタッフも待機）との連携を図っています。医療費は自由裁量制で、受診する専門医によって費用が異なります。私立病院で入院する場合は、メディカルセンターのクリニックから診察料、治療費など、病棟からは看護料、検査費用、病室・手術室の使用料などが別々に請求、支払う仕組みになっています。公立病院については、外来診療と病棟の体制や機能は日本の病院とほぼ同じですが、費用は病院毎に少し異なるとのことでした。

医療保険制度については、国民皆保険制度は非導入であり、自助、互助、間接的援助という三つの原則に基づいて、CPF（Central Provident Fund、中央積立基金制度：強制的社会保障貯蓄制度）という雇用主及び被雇用者が毎月

既定の拠出率に基づいて各自の資金を強制的に積立てる貯蓄制度で賄われています。この中に医療費用の口座 Medisave（給与の 6 ～ 8 %、自己の積立分のみ使用可、相互扶助機能は無い）があり、この Medisave の積立金を使って任意で医療保険 Medisield に加入します。また一般には Medisield に加えて、民間の医療保険にも加入しています。

医療ツーリズムに関しては、シンガポールでは年間でおおよそ 100 万人の医療ツーリストを受け入れています。国レベルでの積極的な後押しがあり、特に 10 年くらい前からは多額の予算を投じて、医療サービスを中核事業として位置付けています。シンガポール保健省、経済開発局、観光局が密に連携、J C I（Joint Commission International：米国の国際的病院品質認証機関）16 施設が認証、高度先進医療が充実/Johns Hopkins、Stanford 大医学部とも提携、医療に関する法律、システム、コンプライアンスなどが整備、Visa 発給や Immigration の効率化、100 以上の都市からの多くの航空会社の空港への乗入れ、多言語、多文化への対応などが医療ツーリスト増加の理由となっています。

私どもは一昨年に東南アジアへ出て、現在はタイでの注射剤工場棟の新設、各国製薬企業との提携の具体化などに取組んでいます。今後とも各国の医療についてもできるだけ多くを学びながら仕事を広げてまいります。

次号は、株式会社ローマン工業の平森社長にお願いします。

## 委員会だより

## 品質委員会

## 無菌製剤 PIC/S ギャップ勉強会

日 時：2014 年 9 月 18 日（木） 13:00～17:00

場 所：澁谷工業株式会社 森本工場

講 師：佐々木 次雄先生（元国立感染症研究所、現澁谷工業株式会社顧問）

本勉強会では、澁谷工業株式会社の佐々木先生に「無菌製剤 PIC/S ギャップ勉強会」と題して、PIC/S Guideline Annex 1：無菌医薬品の製造とのギャップについて、ご講演いただきました。今回の内容は、ギャップがある要件について、具体例を交えて詳細に解説いただきました。各ガイドラインにおいて内容に大差はないものの、ニュアンスの違いによりわかりにくい部分がありましたが、今回の勉強会でその理解が明確になりました。今後のジェネリック製剤開発において、大いに参考となるものでした。また、講演会終了後には澁谷工業株式会社の工場見学も行われました。無菌製剤用の最新設備をはじめ、再生医療分野の設備まで多くの機械を見ることができました。

勉強会終了後には佐々木先生を囲んだ懇親会が開催され、勉強会で聞くことができなかった話題などの意見交換が活発に行われ、盛況のうちに閉会いたしました。佐々木先生を筆頭に、本勉強会の開催にご尽力いただきました澁谷工業株式会社へ深謝いたします。





## ☆ 9 月イベント参加報告について

### ○大阪府河内長野市いきいき介護フェスタ

「使ってみよう！ ジェネリック医薬品」講演会【一般向け】  
（講演会、相談コーナー）

開催日：2014 年 9 月 14 日（日）

講演会 10 時 30 分～11 時 30 分

薬相談 11 時 30 分～12 時

会 場：河内長野市立市民交流センター 3 階大会議室

河内長野市の健康長寿部保険年金課の主催による「使ってみよう！ジェネリック医薬品」の講演会に、協会の総務委員長とくすり相談委員会の委員が参加させて頂きました。

先方からの依頼により「ジェネリック医薬品の品質と安全性」という題名で講演の準備をさせて頂きましたが、当日の参加者約 40 名の大半がお年寄りの方で、「ジェネリック医薬品とは何？ どうして今ジェネリック医薬品なの？」といった基本的な解説も加えさせて頂き、約 30 分の講演をさせて頂きました。講演の後に開催されました「お薬相談」にも、6 名の方が参加され、熱心にジェネリック医薬品について理解を深めようとされていました。

このような地域での「一般市民向けの講演会」に参加される方は、興味を持って参加されるので、大変熱心に聞いて頂けるので広報活動としての効果はあると思われます。

是非、機会があればこのような講演会は地道に展開していきたいと思えます。



○第 56 回全日本病院学会 in 福岡【医師、医療関係者向け】  
（ブース展示）

開催日：2014 年 9 月 20 日（土）、21 日（日）

会 場：ヒルトン福岡シーホーク

『病院医療をプライマリ・ケアの現場から考える～地域の未来を診療所と共に～』をテーマに、全日本病院学会が開催されました。当協会の展示ブースでは、医師の関心が高い品質や臨床上の同等性、情報提供システムなどについて訴求を行い、200 名以上の方にブースへ来場いただきました。

来場者には、患者さんと日々接触される医療・介護のプライマリ・ケアを担うコ・メディカルの方が多く、普段の業務で患者さんからジェネリック医薬品について尋ねられることがあり、当協会作成の「患者説明用資料」をご案内させて頂いたところ、大変喜んで頂きました。今後も、コ・メディカルの方への啓発活動は、積極的に取り組んでいく予定です。



○第 24 回日本医療薬学会年會【薬剤師向け】  
（ブース展示）

開催日：2014 年 9 月 27 日（土）、28 日（日）

会 場：名古屋国際会議場

「新時代を拓く医療薬学フロンティア」のテーマのもと開催されました、当学会は日本病院薬学会からスタートし、平成13年に日本医療薬学会と名称変更してからも、年々会員が増加しており、薬剤師を主体とした学会では国内最大規模となっています。

また、東海地区での開催は17年ぶりであることから、2日間で約8,000名超の参加者がありました。

展示ブースにも両日で500名近くの病院薬剤師を主体とした先生方が訪れ、ジェネリック医薬品に対する関心の高さが反映されていました。ジェネリック製薬協会の存在自体を知らない先生方も中にはおられ、情報提供システムの説明と相俟って協会の認知度のアップ及びジェネリック医薬品の啓蒙活動に十分意義のある学会展示となりました。



## ☆10月イベント参加予定について

## ○第 47 回日本薬剤師会学術大会【薬剤師向け】

（ブース展示、共催セミナー）

開催日：2014年10月12日（日）、13日（月・祝）

会 場：山形テルサ（展示）、山形市保健センター（共催セミナー）

「オール薬剤師の新たなあゆみ ―出羽の国 やまがたから発信―」をテーマに、約7,000人が参加予定の学術大会に、ブース出展と共催セミナー（ランチョンセミナー）を予定しております。ブースでは、ジェネリック医薬品の啓発資料のご案内、情報提供システムのご紹介などを中心に、薬剤師を対象とした広報活動を行います。また、10/12開催の共催セミナーでは、薬剤師など約150名の参加を予定しています。

## ○第 28 回日本臨床内科医学会 in 岩手【医師、医療関係者向け】

（ブース展示、共催セミナー）

開催日：2014年10月12日（日）、13日（月・祝）

会 場：いわて県民情報交流センター・アイーナ（展示）

盛岡市民文化ホール・マリオス（共催セミナー）

「臨床内科医の使命と役割」をテーマに、約1,000人の医師や医療関係者が参加予定の学術大会に、ブース出展と共催セミナー（ランチョンセミナー）を予定しております。ブースでは、ジェネリック医薬品の啓発資料のご案内、情報提供システムのご紹介などを中心に、医師、医療関係者を対象とした広報活動を行います。また、10/13開催の共催セミナーでは、医師など約250名の参加を予定しています。

## ○いばらきのくすり展【一般向け】

（ブース展示）

開催日：2014年10月18日（土）、19日（日）

会 場：イオンモール水戸内原 イオンホール

茨城県、茨城県薬剤師会などの主催で、県民向け啓発活動の一環として、「くすり展」が開催されます。その中で、ジェネリック医薬品の啓発活動としてブース展示を行い、一般市民向けに広報活動を行います。

|活|動|案|内|

## &lt;日 誌&gt;

|          |                          |                 |
|----------|--------------------------|-----------------|
| 9 月 3 日  | 総務委員会広報部会イベント講演グループ会議    | 日本ジェネリック製薬協会会議室 |
| "        | 総務委員会広報部会 J G A ニュース編集会議 | "               |
| "        | 薬価委員会幹事会                 | 東京八重洲ホール会議室     |
| 9 月 4 日  | 薬価委員会幹事会                 | "               |
| 9 月 5 日  | 総務委員会総務部会                | 静岡・浜松駅前ビル会議室    |
| "        | 総務委員会総務部会・広報部会合同会議       | "               |
| 9 月 9 日  | 薬価委員会幹事会                 | 東京八重洲ホール会議室     |
| "        | MR 教育研修検討チーム             | 日本ジェネリック製薬協会会議室 |
| 9 月 10 日 | 薬価委員会正副委員長会議             | "               |
| "        | 薬事関連連絡会                  | 東京八重洲ホール会議室     |
| 9 月 11 日 | 倫理委員会実務委員会               | 日本ジェネリック製薬協会会議室 |
| 9 月 12 日 | 知的財産研究委員会                | "               |
| 9 月 16 日 | 品質委員会残留溶媒連絡会             | 東京八重洲ホール会議室     |
| 9 月 17 日 | 常任理事会、理事会                | 日本ジェネリック製薬協会会議室 |
| "        | ジェネリック研究委員会              | "               |
| "        | くすり相談委員会全体研修会            | 東京八重洲ホール会議室     |
| 9 月 18 日 | くすり相談委員会                 | 日本ジェネリック製薬協会会議室 |
| 9 月 19 日 | 国際委員会                    | "               |
| 9 月 24 日 | 安全性委員会幹事会                | "               |
| "        | 安全性委員会                   | 東京八重洲ホール会議室     |
| 9 月 25 日 | 薬制委員会幹事会                 | 日本ジェネリック製薬協会会議室 |
| "        | 薬制委員会                    | 東京八重洲ホール会議室     |
| 9 月 29 日 | 総務委員会広報部会グループリーダー会       | 日本ジェネリック製薬協会会議室 |

## &lt;今月の予定&gt;

|           |                          |                   |
|-----------|--------------------------|-------------------|
| 10 月 2 日  | 薬価委員会幹事会                 | 東京八重洲ホール会議室       |
| "         | 薬価委員会                    | "                 |
| 10 月 6 日  | 総務委員会広報部会 J G A ニュース編集会議 | 日本ジェネリック製薬協会会議室   |
| "         | 総務委員会広報部会イベント講演グループ会議    | "                 |
| 10 月 7 日  | 薬価委員会正副委員長会議             | "                 |
| "         | 総務委員会総務部会                | "                 |
| 10 月 15 日 | 常任理事会、理事会                | 新大阪ワシントンホテルプラザ会議室 |
| 10 月 16 日 | 総務委員会広報部会グループリーダー会       | メルパルク大阪会議室        |
| "         | 品質委員会幹事会                 | 日本ジェネリック製薬協会会議室   |
| "         | 品質委員会                    | 東京八重洲ホール会議室       |
| 10 月 17 日 | 知的財産研究委員会                | 日本ジェネリック製薬協会会議室   |
| 10 月 21 日 | 薬制委員会幹事会                 | "                 |
| "         | 流通適正化委員会                 | 東京八重洲ホール会議室       |
| 10 月 22 日 | 薬事関連連絡会                  | "                 |
| 10 月 23 日 | 再評価委員会                   | 日本ジェネリック製薬協会会議室   |
| "         | 安全性委員会幹事会                | "                 |
| 10 月 28 日 | 薬価委員会正副委員長会議             | "                 |
| "         | 薬価委員会幹事会                 | "                 |
| 10 月 30 日 | 文献調査委員会                  | "                 |

## ／ 編 集 後 記 ．／

2014 年 9 月 8 日、日本テニス界は悲願の日を迎えていた。U S オープン男子シングルス決勝戦、「世界ランク 1 位」のジェコビッチを破り、ついに錦織圭選手（24 歳）が決勝戦へと駒を進めたのだ。結果は惜しくも準優勝となったが、日本人としてアジア人としても初の決勝進出と日本中の話題となった。

また、ゴルフでは本場アメリカ P G A ツアーへ若手のホープ松山英樹（22 歳）、石川遼（22 歳）が本格参戦し活躍している。

なかでも松山は 6 月 4 日ツアー参戦 1 年目にして、ゴルフの帝王ジャック・ニクラスがホストを務めるメモリアル・トーナメントで青木功、丸山茂樹、今田竜二に次ぐ日本人 4 人目の P G A ツアー優勝を果たした。

「さすが松山、何か持ってる！」とゴルフ好きのオジさん達に元気を与えている。

他のスポーツを見ても、最多連続勝利を記録しヤンキースへ移籍した野球の田中将大（25 歳）、体操ではロンドン五輪個人総合金の内村航平（25 歳）、スケートの 2014 年世界選手権金の羽生結弦（19 歳）とスポーツの世界で通用する日本人が出てきた気がするの、みなさんも同感ではないでしょうか。

まさしく彼らは「ゆとり教育世代」の若者であり、スキル面やメンタル面でも世界トップクラスへ成長して来たのである。

「ゆとり教育」の学力レベルの低下ばかりが論じられているが、こうして世界で活躍できるスポーツ選手が出てくるのを見ると、なかなか恵まれた良い環境に育ったのではと思うこと然りである。

私が育った時代にも、もう少し「ゆとり教育」なるものがあつたなら・・・  
ゴルフコンペで優勝のかかった最終ホール、「フォー」とキャディーさんの声と共にオーバーゾーンへと「消えていくマイボール」を見ながら、少しはメンタル面も強く育ったのかも？？？と「つぶやく」この頃です。

(M. H)

## ■ 編 集

日本ジェネリック製薬協会  
総務委員会広報部会

## ■ 発 行

日本ジェネリック製薬協会

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3-3-4

日本橋本町ビル 7 F

TEL: 03-3279-1890 FAX: 03-3241-2978

URL: www. jga. gr. jp